

| | | | | | | | |
|--|--|-----|------|---------|----------------------|------------|-------------------------|
| 授業科目(ナンバリング) | 国際観光論(CA212) (実践的教育科目) | | | 担当教員 | 三浦 知子 (実務経験のある教員) | | |
| 展開方法 | 講義 | 単位数 | 2 単位 | 開講年次・時期 | 2 年・後期 | 必修・選択 | 必修 |
| 授業のねらい | | | | | | | アクティブ ラーニング の 類 型 |
| 21 世紀は人々の移動が地球規模で行なわれる、「国際観光の時代」と言われている。観光が世界経済の大きな柱となってきたのである。国際観光客を多数受け入れている国や、国際観光客を多数送り出している国といったグローバルな視点からの「国際観光」と日本人の海外旅行(アウトバウンド)、近年大きく伸びている外国人の訪日観光(インバウンド)について、理解を深めることを目標とする。 | | | | | | | ⑨⑩ |
| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | | | | 評価手段・方法 | 評価比率 | |
| 専門力 | 観光の視点から、国際関係について理解を深め、自分なりの考えを持つことができる。 データを分析し、文章を自分の言葉でまとめる力をつけ、自分の意見を論理的に発表できるようにする。 | | | | ・定期試験 ・課題レポート | 30% 20% | |
| 情報収集、分析力 | 国際観光についての幅広い知識を有し、社会の国際化についての話題提供に貢献できる。 | | | | ・授業態度・授業への参加度 | 20% | |
| コミュニケーション力 | | | | | | | |
| 協働・課題解決力 | | | | | | | |
| 多様性理解力 | 国際観光について、国際関係とのかかわりや影響について理解することができる。 | | | | ・定期試験 | 30% | |
| 出 席 | | | | | 受験要件 | | |
| 合 計 | | | | | 100% | | |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| 定期試験(60%)、課題レポート(20%)、授業態度等(20%)により、総合的に評価する。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | |
| <p>20 世紀の後半からの世界的な社会現象のひとつに、国際観光(International tourism)による人間の往来移動が、世界的な規模で日常化してきたことが指摘できる。旅行会社の海外旅行部門での勤務経験を活かし、国際観光について、地理的、歴史的な背景や国際観光の定義や各国の動きについて概観する。その上で、1964 年の日本人の海外旅行の自由化以後の変遷、また現在大幅に増加している訪日外国人観光の両面から学ぶ。併せて訪日観光戦略について、国別の訪日プロモーション方針を学び、今後の展開を展望する。</p> <p>毎回の授業開始時に前回の復習テストを実施し、テスト終了後にフィードバックを行う。 この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分とする。</p> | | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | | |
| <p>教科書：特に定めない。必要に応じ講義時にプリント、レジュメ等を配布する。 参考書：浅羽良昌『国際観光論』昭和堂 指定図書：池上彰『学校では教えない「社会人のための現代史」池上彰教授の東工大講義 国際篇』、文春文庫</p> | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| <p>社会のグローバル化は著しく、特にアジアの成長は急速に進んでいます。今後の観光の主役がアジアにあるといっても過言ではありません。そうした状況に興味と関心を抱き、積極的に国際観光を学んでください。毎回取り上げる国・地域について予習で調べてから授業にのぞんでください。併せて国際観光の視点から日本の観光政策について比較検討してほしいと期待しています。</p> | | | | | | | |

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|----|--------------------|--|---|
| 1 | オリエンテーション | 国際観光 international tourism と国内観光 domestic tourism の相違について考える。 | 復習／国際観光の定義について復習する |
| 2 | 観光立国と日本の観光政策 | 観光立国推進基本法に基づく日本の観光政策のポイントについて学び、日本における国際観光の現状について理解する。 | 予習／観光立国推進基本計画を読む 復習／日本の観光政策 |
| 3 | 明治維新後の日本の観光 | 明治維新後から第二次世界大戦前までの日本の国際観光について学ぶ。 | 予習／明治維新後から第二次世界大戦までの歴史 復習／戦前の観光の特徴 |
| 4 | 第二次世界大戦後の海外旅行と訪日観光 | 1945年から2000年頃までの日本人の海外旅行の変遷と、外国人の訪日観光の変遷について学ぶ。 | 予習／第二次世界大戦後の日本史 復習／海外旅行、訪日慣行の変遷 |
| 5 | 魅力的な観光国① | 国際観光客を多く受け入れている国を抽出し、その国々の観光資源や魅力を学ぶ。 | 予習／フランス、スペインの観光資源を調べる 復習／配布データの分析 |
| 6 | 魅力的な観光国② | フランスの観光政策について、組織や地域等から学ぶ。観光政策の現状についての理解を深める。 | 予習／フランスの観光の特性を調べる 復習／フランス観光政策 |
| 7 | 海外旅行好きな国民 | ドイツとイギリスの国際観光の特徴について学ぶ。併せて両国の観光政策とスポーツイベントのかかわりについての理解を深める。 | 予習／イギリス・ドイツの観光資源を調べる 復習／ドイツ・イギリスの国際観光の特徴 |
| 8 | 観光収支とアメリカ | アメリカへの観光客数の推移とその実態について考える。アメリカの観光収入が高い理由についての理解を深める。 | 予習／アメリカの観光資源を調べる 復習／アメリカの観光収支 |
| 9 | 訪日プロモーション方針① | アジア諸国への訪日プロモーション方針について学ぶ。中国・韓国市場の動向や特性について理解を深める。 | 予習／中国・韓国の観光資源を調べる、復習／訪日方針（中国・韓国） |
| 10 | 訪日プロモーション方針② | アジア諸国への訪日プロモーション方針について学ぶ。台湾・香港の市場の動向や特性について理解を深める。 | 予習／台湾・香港の観光資源を調べる、復習／訪日方針（台湾・香港） |
| 11 | 訪日プロモーション方針③ | アメリカへの訪日プロモーション方針について学ぶ。アメリカの市場の動向や特性について理解を深める。 | 予習／アメリカ人に人気の国内観光地を調べる、復習／訪日方針（アメリカ） |
| 12 | 訪日プロモーション方針④ | 豪州（オーストラリア）・カナダへの訪日プロモーション方針について学ぶ。オーストラリア・カナダの市場の動向や特性について理解を深める。 | 予習／オーストラリア人・カナダ人に人気の国内観光地を調べる、復習／訪日方針（豪州・カナダ） |
| 13 | 訪日プロモーション方針⑤ | 東南アジアへの訪日プロモーション方針について学ぶ。市場の動向や特性について理解を深める。 | 予習／ドイツ人に人気の国内観光地を調べる、復習／訪日方針（ドイツ） |
| 14 | 訪日プロモーション方針⑥ | ドイツへの訪日プロモーション方針について学ぶ。市場の動向や特性について理解を深める。 | 予習／の国を調べる 復習／訪日方針（東南アジア） |
| 15 | まとめ | 国際観光を成立させている現代社会の構造と今後の動向について概観する。 | 試験準備 |
| 16 | 定期試験 | 筆記試験 | 筆記試験の準備 |